

ゆめ風現地調査同行 1/26～29(東北福祉大学 石塚 裕子さん)

26日

あえて東北新幹線経由としたのに、車両故障で遅延が生じて、少し遅刻の11:05に金沢到着。駅レンタカーでゆめ風の植野さん、大阪市の高宮さん、中山さんと合流する。

ひまわり教室へ。

阪神淡路大震災以来、大阪市の現場職員（主に公園課）の労働組合さんがゆめ風さんと連携して活動されてきたことを知る。

維新に変わり、活動に制約がでていそう。ボランティア休暇が廃止になっているので、休暇をとって参加されているとのこと。

@ひまわり教室 12:00～13:30 徳田さん、林さん

共生ネットのパッチワーク、つながりの家、すーぷる、エポックなどのスタッフが、買い出しなどを協力して行う。

ただ、現地への輸送は1日仕事となることから、担い手は限られる。

丁寧に聞き取りをして、必要な物資を必要な時に届けているので、とてもきめ細やかな物資が届けられている。（別紙参照）

生鮮食料品や折り紙、ぬり絵、パズルなどリクリエーションの品も

ひまわり教室は、フルタイム6人

14:00 @石川県庁 竹田良平議員

ご本人が脳性マヒの障害者手帳6級とのこと北國新聞の記者が同席する

障がいのある議員ネットワークからの紹介で、ゆめ風と連携される

ゆめ風、JDFなどが拠点を探していることに協力したいと思い問い合わせしているが、学校は難しい。

民間にも声をかけて探しているところとのこと。

県などの相談窓口が明確になっていないことが課題と感じているとのこと。

現在、開設されている1.5次避難所のうち、旅館やホテルは3/16の新幹線の開通までに閉鎖される予定とのこと。それ以外の体育館などは半年程度を覚悟しているのではないか。

復興計画委員会は、まだ立ち上がっていない。

(翌日、熊本地震の安否確認、SOSチラシをメールで送付する)

15:30 @野々市市 ときわ病院（精神）相談支援基幹センター

広域避難者の巡回、相談が入ってきているようだ（担当者はお休み）

その後、白山市の障害福祉課（堀口課長）にも立ち寄るが担当者は不在。ゆめ風の支援について伝言する。

20:00 @石川総合スポーツセンター1.5次避難所

DWA T大阪として応援に入っている橘さん、岡村さんにお話を聞く。2024.01.26.20:00時点でメインアリーナに約300人、サブアリーナに約110人、マルチエリアは不明

計画ではメインアリーナは自立生活ができる人、サブアリーナは軽度の介護が必要な人、マルチエリアが介護が必要な人が入居する予定だった。

しかし、日が経過するにつれて、要介護の人の割合が増えて、対応の幅が広がっている。サブアリーナでも全介護が必要な人や徘徊する人が増えている。メインアリーナでもトイレや食事の介助が必要な人が増えている。

サブアリーナとマルチエリアは、DMATも入っているので、医療、福祉、ケアマネさんが連携して取り組む体制が整いつつある。

サブアリーナに、奥能登の老健施設から十数人の方がヘリコプターで運ばれることもあった。

あくまでも1.5次避難所ということで、次の2次避難所へ移動するまでの数日を過ごすという想定であったが、移動先が見つからない（県外への移動を拒む、地元への帰還を希望している、受け入れ先が見つからないなどさまざまな理由で）人も多く、長期化する傾向にある。

入居が始まって(1/8～)約2週間が経過するが、超概算で1/4ぐらいの人が1週間以上の滞在になっている。また、97%が高齢者（最初は乳幼児連れなどの家族もいた）

スポーツ施設は、メイン施設は避難所となり使用不可だが、ジムとプールは一般開放している。このため、多くの県民が夜遅くからでも利用に来ていた。避難している人とレクリエーションを楽しむ

人が混在する空間に最初は違和感を感じたが、談話コーナーなどで交わることで、避難者にとっては良い息抜き、日常の雰囲気を感じることもできて、悪くはないのかもしれないと考え直した。

医療と福祉の連携では、滞在1週間以上の人情報を見えるかし、共有しながら対応を考えることが始まっているようだ。また、それぞれのブースのパーティションも取り払われたようだ（拍手がおこる）

メインアリーナには、子どもスペース、授乳スペースなど整備されているが、現在は5組いるかいないかだそうだ。

当初の見立てよりも2次避難が進んでいない。中には「輪島の家に帰りたい」と言って帰ろうとする人も。

地元では何とか自立生活ができていた人が、急な環境変化の中で介護認定されてしまい、家族の心配もあり、避難所に移動してきている。そのため初めてケアを受ける人もいる。

サブアリーナ120人定員に対して110人が入居されており、スタッフは約12人程度で対応している。

メインアリーナで入浴に介助が必要な人は60人程度いるが、ゆったりシャワールームを利用して、スタッフによる入浴介助できるのは1日に数組なので、1週間に1、2度利用できるかどうかになっている。

サブアリーナの人の食事は、栄養士がつき、一人ひとりにあわせて配膳されている。（介護スタッフは、配膳に貼られた名前のおり配布し、食事介助を行う）

メインアリーナのほうでは、お弁当、おにぎりの配布。バナナやゼリーはいつでも食べられるようになっている。先日、杉良太郎さんの炊き出しがあって、とても喜ばれていた。

2024. 01. 27

ひまわり教室 徳田さんひびき 松下さん

徳田さんの弟さん

8:00 ひまわり教室を出発。途中で徳田さんの弟さんと合流して のと里山海道で志賀町へ

10:00 グループホーム 学び舎に到着

隣は志賀中学校跡地。アクセス道路が大きく破損。月曜日から災害廃棄物受け入れのための準備

が行われていた。

学び舎では、法人の関連施設（1時間程度）の入浴施設へ通っている。週に2回程度、スタッフが介助して。

支援物資については、頭が真っ白で思いつかないと。親御さんなのか、救援物資を持って訪問している老夫婦がいた。

相談支援センターの機能も担っている事業所で、利用者には連絡とっているとのこと。

249号線を北上し、富来行政区でトイレ休憩

11:23 輪島入り ところどころ片側通行になっているが、249号線は通行可能になっていた。

入所施設 あぎし工房に到着

50人中40人が継続入居している。

廃校を利用した施設。開所して20年近く経つが、初めの入居者がそのままなので、高齢化しているとのこと。お正月でも実家に戻る人はほとんどいない。近くのレストランから少し豪華な昼食をとって団らんしていたところに地震が起こる。

すぐにDMATが入ってくれた。

スタッフのほとんどが被災しており、避難所から通っている。

総持寺をはじめ、文化財となっている立派な寺が多い。

寺前のお宅では、中年の男女が屋根にのぼってブルーシートをとりつけようとしていた。家の前には廃棄物も。ボランティアはいない。

他の家は、人影がなく被災したまま、まったく手が付けられていないようだ。被災から2週間以上経つ週末なのに、とても静かで、人がいない。

各集落の公民館には、たくさん車が停まっていて、避難されている様子うかがえる。DMATや感染対策看護師などが支援に入っている様子うかがえる。

一方で不審者情報があると話す住民もいた。

16:00 ひまわり教室に戻る

満仁崎さんと翌日の打ち合わせを行う。

配送については、利用者のお父さんの会に応援を依頼したそう。ゆるやかに支援ネットワークが広がっている。

2024.01.28

ひまわり教室 マニサキさんひびき 林田さん

9:00 ひまわり出発

159号（59号）広域農道をつかって北上する。道路条件はかなり良い。

10:00 宝達志水町 トイレ休憩

10:30 福の神

断水は解消しお風呂も入れるように。夜の交替などの人的支援も入っているとのこと。

スタッフ北出さんのお顔に少し余裕がでていた。救援物資もいったんストップしてほしいとのこと。11:00 青山彩光園

定員100名のうち80人が入所。重度身体障害者の入所施設のはずだ。

お風呂には入れなからと、からだふきを持ってきてほしいと依頼があり、いくらあってもかまわないとのこと。

かなりの物資が積み上げられていた。

自衛隊へのお風呂要請などを行っているのかと尋ねたところ、要請しているかどうかもわからないとのこと。

給水が復旧しても館内の配管状況がわからないので、お風呂などが使用できるようになるには、まだまだ時間が必要なようだ。

入浴外出なども検討されている気配がなかった。 12:00

満仁崎さんの親戚（おばさん）宅で昼食をとらせていただく。

田鶴浜駅近く。1筋の道路沿いの建物が壊滅している。輪島と珠洲の2つの近く変動で土地が隆起している。

おじさんは足腰が悪いため、危険判定を受けた自宅に留まっている。おばさんのほうは夜だけ避難所にいっているようだ。

もう一度大きな揺れがあると危険とのこと。家の隣に立つ納屋の屋根が大きくズレていた。停電はしなかったそうだが、断水が続く。

和倉温泉界隈を視察。旅館の大きな建物が損壊しており再建できるのだろうかと不安になった。七尾から和倉温泉までの鉄道の復旧は進んでいる様子がかがえた。

13:30 自立ホーム けいじゅ「ふきのとう」グループホーム

20人中17人が継続して入居。残りの3人は家族と避難所に。

週1回穴水の自衛隊拠点が設置しているお風呂を利用。マイクロバスで迎えにきてくれている。

高齢の知的障害者が多いようで、移動などの障壁が少ないよう。

事前に確認した折り紙、ぬり絵、パズルなど、大変喜ばれていた。スタッフのかたは涙を浮かべられていた。

14:10 七尾市中島地区小牧 協働センター 頼政さんに会うコミュニティセンターに20人程度避難中。

全戸に支援ニーズアンケート調査を実施。20件ほどから片付けの依頼がある。2、3月で学生ボランティアも派遣し足湯なども実施していく予定。

地域の方の力を借りて、住宅マップの作成、救援物資の棚の製作、仮設風呂の接しなどを行っている。

15:30 B型就労 「ゆうの丘」

40人中30人が戻ってきて通所している。

いつもどおり通所して作業しているほうがよいとのこと。断水は続いている。

しいたけ栽培をしているが、しいたけの乾燥機が壊れてしまう。また、原木は奥能登から取り寄せていたため続けていけるかわからない。

でも新たな仕事の依頼もあり、頑張っている。

他の作業所では、利用者がバラバラに避難してしまい、利用者がいなくなり、事業の見直しが必要なところもでてきている。

ショートステイにじ グループホームあさひ

お風呂の介助依頼があり27日に富山のぽれぽれさんが支援に入った。担当者がお休みでお会いできず。

16:00終了

2024.01.29 9:30~11:30@石川バリアフリーツアセンター 坂井さん

観光都市金沢はバリアフリーが進んでいると思っていた。しかし、バリアフリールームはあっても、そこまでのアクセスが確保されていないなど、たくさんの課題があることを知った。

2012年にセンターを立ち上げ、約1年半ほど関係機関を廻ったが、福祉も観光も専門でない者として、かなり苦労した。

2015年にNPO法人化した

2016年に全国大会を開催し、478人もの方が参加し、約1/3が行政関係者だった。オリパラ前だったこともあり、ここから軌道にのった。

数年は依頼が50件/年だったが、2016年以降は700~800件まで増加し、コロナ渦であっても1000件/年を下回ることはなかった。

今回の地震で最初に声をかけたのは、ユニバーサルツーリズム協議会とバリアフリーツアー推進機構だった。

最初に車いす、シルバーカー、タッチアップなどが3,40台届いた。

福島からは段ボールベットが、徳島からは3トントラックで物資が届けられた。これまでのネットワークの力を感じた。

1/2に中能登にある工場の被害状況を確認した。高齢者や障害者の支援が遅れるのではないかと危惧した。

1/3に輪島、珠洲市の総務課に電話したが県に電話してほしいと言われた。県では支援内容を書いて送ってもらえれば審査し、自衛隊でも審査して被災地に届けることになると言われた。遅すぎると感じた。

1/3 ゆるスポーツ協会の澤田さん(電通)と相談して とどけどとJPを立ち上げることに

1/4,5には輪島や珠洲、能登の障害福祉課や地域おこし課の担当者に直接連絡することにした。

そして、市内の高齢障害施設一覧を送ってもらい、市からの依頼であると伝えて、各事業所に電話をかけた。

1/10にはとどけ.jp受付開始。各事業所から依頼のあった物資を入力し、寄付者を募った。

1/13に第一次発送開始 2トントラック2台で運び始めた。現在は3台になっている

仕分けには、時給1000円でヘルパー派遣事務所に依頼して人を雇用している。現在約90の事業所に物資を届けている。

金沢市が依頼した佐川急便のトラック3台が毎日、配送している。

ほしいものリストをつくり、必要な品目、数量をかいてもらい、必要なものだけ届けるようにしている。

ポリドントだったり、トロミ剤だったり、補聴器、お尻ふきなど、言われてみて「あーそうかとわかる品も」

行政も少しずつ対応はじまり自衛隊が物資も届けているが、そこから抜け落ちる施設が必ずある。また個人への対応も必要だが、個々には難しいので、区長や班長などと連携して、対応するネットワークが必要と感じている。

昼食(8番ラーメン)後、内灘地区の相談支援事務所4カ所を訪問

3カ所はあまり反応がなく、利用者の中には避難所に居る人もいますとだけ回答。

1カ所グループホーム(どんぐりの杜)を運営している方は、志賀町や能登町から支援計画の相談があるが、県や市の情報を提供することしかできないと話す。受け入れの側の情報や体制が脆弱であることがわかる。

その後、内灘地区の被害状況を確認。すべての建物、道路が液状化で曲がりくねっている様子に圧倒される。

こちらもとてつもない被害を受けている。